

## 授業概要

科目名	人間の尊厳と自立	授業の種類	通信	必修・選択	必修																
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	5時間	配当時期	1～6月目																
授業の目的 ・狙い	介護における基本的理念を理解する。																				
授業の内容	① 人間の多面的な理解と尊厳 ② 自立の支援 ③ 人権と尊厳																				
到達目標	尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。																				
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 20%;">学習テーマ</th> <th style="width: 60%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.0</td> <td>1週目 通信</td> <td>人間の多面的な 理解と尊厳</td> <td>人間の理解、尊厳の意義、人権と尊厳をめぐる歴史的経緯、人権と尊厳に関する諸規定について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>1週目 通信</td> <td>自立の支援</td> <td>介護における自立、自立への意欲と動機づけ、自立した生活を支えるための援助の視点、介護における自立支援の実践について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>1週目 通信</td> <td>人権と尊厳</td> <td>介護における権利擁護と人権尊重、高齢者虐待の実態と介護の課題、尊厳の保持を目指した介護実践、ノーマライゼーションの実現、プライバシー保護について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	2.0	1週目 通信	人間の多面的な 理解と尊厳	人間の理解、尊厳の意義、人権と尊厳をめぐる歴史的経緯、人権と尊厳に関する諸規定について学ぶ。	2.0	1週目 通信	自立の支援	介護における自立、自立への意欲と動機づけ、自立した生活を支えるための援助の視点、介護における自立支援の実践について学ぶ。	1.0	1週目 通信	人権と尊厳	介護における権利擁護と人権尊重、高齢者虐待の実態と介護の課題、尊厳の保持を目指した介護実践、ノーマライゼーションの実現、プライバシー保護について学ぶ。
	コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																	
	2.0	1週目 通信	人間の多面的な 理解と尊厳	人間の理解、尊厳の意義、人権と尊厳をめぐる歴史的経緯、人権と尊厳に関する諸規定について学ぶ。																	
	2.0	1週目 通信	自立の支援	介護における自立、自立への意欲と動機づけ、自立した生活を支えるための援助の視点、介護における自立支援の実践について学ぶ。																	
1.0	1週目 通信	人権と尊厳	介護における権利擁護と人権尊重、高齢者虐待の実態と介護の課題、尊厳の保持を目指した介護実践、ノーマライゼーションの実現、プライバシー保護について学ぶ。																		
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																		

## 授業概要

科目名	社会の理解Ⅰ	授業の種類	通信	必修・選択	必修																
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	5時間	配当時期	1～6月目																
授業の目的・狙い	介護保険制度の目的、しくみ、サービスの内容、専門職の役割を理解する。																				
授業の内容	① 介護保険制度創設の背景と目的 ② 介護保険制度の基礎的理解 ③ 介護保険制度における専門職の役割																				
到達目標	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。																				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 20%;">学習テーマ</th> <th style="width: 60%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.0</td> <td>1週目 通信</td> <td>介護保険制度創設の背景と目的</td> <td>介護保険制度の創設をめぐる社会的背景、1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の基本理念について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>1週目 通信</td> <td>介護保険制度の基礎的理解</td> <td>介護保険制度の概要、保険者・被保険者、保険給付の対象者、保険給付までの流れ、保険給付の種類と内容、地域支援事業、国・都道府県・市町村の役割、その他の組織の役割、季語保険の財政について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>1週目 通信</td> <td>介護保険制度における専門職の役割</td> <td>介護職の役割、介護支援専門員の役割、その他の専門職の役割について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	1.0	1週目 通信	介護保険制度創設の背景と目的	介護保険制度の創設をめぐる社会的背景、1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の基本理念について学ぶ。	3.0	1週目 通信	介護保険制度の基礎的理解	介護保険制度の概要、保険者・被保険者、保険給付の対象者、保険給付までの流れ、保険給付の種類と内容、地域支援事業、国・都道府県・市町村の役割、その他の組織の役割、季語保険の財政について学ぶ。	1.0	1週目 通信	介護保険制度における専門職の役割	介護職の役割、介護支援専門員の役割、その他の専門職の役割について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																		
1.0	1週目 通信	介護保険制度創設の背景と目的	介護保険制度の創設をめぐる社会的背景、1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の基本理念について学ぶ。																		
3.0	1週目 通信	介護保険制度の基礎的理解	介護保険制度の概要、保険者・被保険者、保険給付の対象者、保険給付までの流れ、保険給付の種類と内容、地域支援事業、国・都道府県・市町村の役割、その他の組織の役割、季語保険の財政について学ぶ。																		
1.0	1週目 通信	介護保険制度における専門職の役割	介護職の役割、介護支援専門員の役割、その他の専門職の役割について学ぶ。																		
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																		

## 授業概要

科目名	社会の理解 II	授業の種類	通信	必修・選択	必修																								
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	30時間	配当時期	1～6月目																								
授業の目的 ・狙い	地域で暮らす個人や家族について、人間の生活と福祉の視点からとらえたうえで、社会保障制度・障害者総合支援法等の諸制度について理解する。																												
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生活と福祉</li> <li>② 地域共生社会の実現に向けた制度や施策</li> <li>③ 社会保障制度</li> <li>④ 障害者総合支援制度</li> <li>⑤ 介護実践にかかわる諸制度</li> </ul>																												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</li> <li>・ 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。</li> <li>・ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。</li> <li>・ 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</li> <li>・ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。</li> </ul>																												
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">日程</th> <th style="text-align: center;">学習テーマ</th> <th style="text-align: center;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3.0</td> <td style="text-align: center;">1週目 通信</td> <td style="text-align: center;">生活と福祉</td> <td>家庭生活の基本機能、家族、地域、社会集団と組織、ライフスタイルの変化について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2.0</td> <td style="text-align: center;">1週目 通信</td> <td style="text-align: center;">地域共生社会の実現 に向けた制度や施策</td> <td>地域共生社会、地域包括ケアシステムについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10.0</td> <td style="text-align: center;">1～2週目 通信</td> <td style="text-align: center;">社会保障制度</td> <td>社会保障の概念・範囲、日本の社会保障の発達、社会保障の意義・役割・目的・機能、日本の社会保障制度のしくみ、年金保険、医療保険、後期高齢者医療制度、雇用保険、労働者災害補償保険、公的扶助、社会手当、社会福祉について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10.0</td> <td style="text-align: center;">2週目 通信</td> <td style="text-align: center;">障害者総合支援制度</td> <td>障害の種類と定義、障害者自立支援法から障害者総合支援法へ、サービスの種類と内容、サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、障害者総合支援制度における事業者・組織・団体の機能と役割、ライフサイクルからみた支援組織について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5.0</td> <td style="text-align: center;">2週目 通信</td> <td style="text-align: center;">介護実践にかかわる 諸制度</td> <td>サービスの利用にかかわる諸制度、虐待防止の諸制度、人々の権利を擁護するその他の諸制度、保健医療にかかわる諸制度、介護職と医療にかかわる諸制度、生活を支える諸制度、住生活を支援する諸制度について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	3.0	1週目 通信	生活と福祉	家庭生活の基本機能、家族、地域、社会集団と組織、ライフスタイルの変化について学ぶ。	2.0	1週目 通信	地域共生社会の実現 に向けた制度や施策	地域共生社会、地域包括ケアシステムについて学ぶ。	10.0	1～2週目 通信	社会保障制度	社会保障の概念・範囲、日本の社会保障の発達、社会保障の意義・役割・目的・機能、日本の社会保障制度のしくみ、年金保険、医療保険、後期高齢者医療制度、雇用保険、労働者災害補償保険、公的扶助、社会手当、社会福祉について学ぶ。	10.0	2週目 通信	障害者総合支援制度	障害の種類と定義、障害者自立支援法から障害者総合支援法へ、サービスの種類と内容、サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、障害者総合支援制度における事業者・組織・団体の機能と役割、ライフサイクルからみた支援組織について学ぶ。	5.0	2週目 通信	介護実践にかかわる 諸制度	サービスの利用にかかわる諸制度、虐待防止の諸制度、人々の権利を擁護するその他の諸制度、保健医療にかかわる諸制度、介護職と医療にかかわる諸制度、生活を支える諸制度、住生活を支援する諸制度について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																										
3.0	1週目 通信	生活と福祉	家庭生活の基本機能、家族、地域、社会集団と組織、ライフスタイルの変化について学ぶ。																										
2.0	1週目 通信	地域共生社会の実現 に向けた制度や施策	地域共生社会、地域包括ケアシステムについて学ぶ。																										
10.0	1～2週目 通信	社会保障制度	社会保障の概念・範囲、日本の社会保障の発達、社会保障の意義・役割・目的・機能、日本の社会保障制度のしくみ、年金保険、医療保険、後期高齢者医療制度、雇用保険、労働者災害補償保険、公的扶助、社会手当、社会福祉について学ぶ。																										
10.0	2週目 通信	障害者総合支援制度	障害の種類と定義、障害者自立支援法から障害者総合支援法へ、サービスの種類と内容、サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、障害者総合支援制度における事業者・組織・団体の機能と役割、ライフサイクルからみた支援組織について学ぶ。																										
5.0	2週目 通信	介護実践にかかわる 諸制度	サービスの利用にかかわる諸制度、虐待防止の諸制度、人々の権利を擁護するその他の諸制度、保健医療にかかわる諸制度、介護職と医療にかかわる諸制度、生活を支える諸制度、住生活を支援する諸制度について学ぶ。																										
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																										

## 授業概要

科目名	介護の基本Ⅰ	授業の種類	通学・通信	必修・選択	必修																
授業担当者	大淵 忍・川口 登紀子	時間数 (単位数)	10時間	配当時期	1～6月目																
授業の目的 ・狙い	尊厳の保持のもとに自立に向けた介護を展開するために、介護福祉士の職業倫理を軸としながら介護についての理解の幅を広げる。																				
授業の内容	① 介護福祉士の役割と機能 ② 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③ 介護福祉士の倫理																				
到達目標	・介護福祉制度の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 ・個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ・介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。																				
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5 0.5</td> <td>3週目 通信 17週目 通学</td> <td>介護福祉士の役割と機能</td> <td>介護福祉士を取り巻く状況、社会福祉士及び介護福祉士法、介護福祉士のキャリアパス、介護福祉士の活動の場と役割について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.5 0.5</td> <td>3週目 通信 17週目 通学</td> <td>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</td> <td>利用者に合わせた生活支援、自立に向けた支援、自立に向けたICFの考え方、自立に向けたリハビリテーションの考え方、自立に向けた個別ケアの考え方、介護の専門性について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2.5 0.5</td> <td>3週目 通信 17週目 通学</td> <td>介護福祉士の倫理</td> <td>介護福祉士としての倫理の必要性、日本介護福祉士会倫理綱領について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	2.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士を取り巻く状況、社会福祉士及び介護福祉士法、介護福祉士のキャリアパス、介護福祉士の活動の場と役割について学ぶ。	3.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	利用者に合わせた生活支援、自立に向けた支援、自立に向けたICFの考え方、自立に向けたリハビリテーションの考え方、自立に向けた個別ケアの考え方、介護の専門性について学ぶ。	2.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護福祉士の倫理	介護福祉士としての倫理の必要性、日本介護福祉士会倫理綱領について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																		
2.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士を取り巻く状況、社会福祉士及び介護福祉士法、介護福祉士のキャリアパス、介護福祉士の活動の場と役割について学ぶ。																		
3.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	利用者に合わせた生活支援、自立に向けた支援、自立に向けたICFの考え方、自立に向けたリハビリテーションの考え方、自立に向けた個別ケアの考え方、介護の専門性について学ぶ。																		
2.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護福祉士の倫理	介護福祉士としての倫理の必要性、日本介護福祉士会倫理綱領について学ぶ。																		
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																		

## 授業概要

科目名	介護の基本Ⅱ	授業の種類	通学・通信	必修・選択	必修																				
授業担当者	田島 俊信	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目																				
授業の目的・狙い	介護を必要とする高齢者や障害者などの生活理解を踏まえ、介護実践のあり方や多職種や地域との連携、介護における安全とリスクなどについて理解する。																								
授業の内容	① 介護を必要とする人の生活の理解と支援 ② 介護実践における連携 ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント ④ 介護従事者の安全																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</li> <li>・ チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。</li> <li>・ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。</li> <li>・ 介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。</li> </ul>																								
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5.5 0.5</td> <td>3週目 通信 17週目 通学</td> <td>介護を必要とする人の生活の理解と支援</td> <td>「その人らしさ」、高齢者の暮らしと支援の実際、障害のある人の暮らしと支援の実際、介護を必要とする人の生活環境について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.5 0.5</td> <td>3週目 通信 17週目 通学</td> <td>介護実践における連携</td> <td>多職種連携、地域連携について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.5 0.5</td> <td>3～4週目 通信 17週目 通学</td> <td>介護における安全の確保とリスクマネジメント</td> <td>事故防止と安全対策、感染対策について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.5 0.5</td> <td>3～4週目 通信 17週目 通学</td> <td>介護従事者の安全</td> <td>健康管理の意義と目的、健康管理に必要な知識と技術、安心して働ける環境づくりについて学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	5.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護を必要とする人の生活の理解と支援	「その人らしさ」、高齢者の暮らしと支援の実際、障害のある人の暮らしと支援の実際、介護を必要とする人の生活環境について学ぶ。	5.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護実践における連携	多職種連携、地域連携について学ぶ。	3.5 0.5	3～4週目 通信 17週目 通学	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止と安全対策、感染対策について学ぶ。	3.5 0.5	3～4週目 通信 17週目 通学	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的、健康管理に必要な知識と技術、安心して働ける環境づくりについて学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																						
5.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護を必要とする人の生活の理解と支援	「その人らしさ」、高齢者の暮らしと支援の実際、障害のある人の暮らしと支援の実際、介護を必要とする人の生活環境について学ぶ。																						
5.5 0.5	3週目 通信 17週目 通学	介護実践における連携	多職種連携、地域連携について学ぶ。																						
3.5 0.5	3～4週目 通信 17週目 通学	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止と安全対策、感染対策について学ぶ。																						
3.5 0.5	3～4週目 通信 17週目 通学	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的、健康管理に必要な知識と技術、安心して働ける環境づくりについて学ぶ。																						
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																						

## 授業概要

科目名	コミュニケーション技術	授業の種類	通学・通信	必修・選択	必修																				
授業担当者	田島 俊信	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目																				
授業の目的 ・狙い	相談援助の技術と合わせて、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの技法を理解する。																								
授業の内容	① 介護におけるコミュニケーション ② 介護におけるコミュニケーション技術 ③ 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ④ 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。</li> <li>・利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</li> <li>・チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等）に関する知識を理解し、活用できる。</li> <li>・状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</li> </ul>																								
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.5 0.5</td> <td>通信 4週目 通学 17週目</td> <td>介護におけるコミュニケーション</td> <td>コミュニケーションの意義・目的・役割・技法、支援関係の構築と意思決定の支援について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.5 0.5</td> <td>通信 4週目 通学 17週目</td> <td>介護におけるコミュニケーション技術</td> <td>話を聴く技法、利用者の感情表現を察する方法、利用者の納得と同意を得る技法、質問の技法、相談・助言・指導の技法、利用者の意欲を引く出す技法、利用者の家族の意向を調整する技法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.5 0.5</td> <td>通信 4～5週目 通学 17週目</td> <td>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</td> <td>コミュニケーション障害、視覚・聴覚・構音障害・失語症・高次脳機能障害・知的障害・精神障害・認知症に応じたコミュニケーション技術について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 17週目</td> <td>介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション</td> <td>チームマネジメントの理解と活用、チームコミュニケーション、記録による情報の共有化、報告・連絡・相談による情報の共有化、会議による情報の共有化について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	1.5 0.5	通信 4週目 通学 17週目	介護におけるコミュニケーション	コミュニケーションの意義・目的・役割・技法、支援関係の構築と意思決定の支援について学ぶ。	5.5 0.5	通信 4週目 通学 17週目	介護におけるコミュニケーション技術	話を聴く技法、利用者の感情表現を察する方法、利用者の納得と同意を得る技法、質問の技法、相談・助言・指導の技法、利用者の意欲を引く出す技法、利用者の家族の意向を調整する技法を学ぶ。	5.5 0.5	通信 4～5週目 通学 17週目	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	コミュニケーション障害、視覚・聴覚・構音障害・失語症・高次脳機能障害・知的障害・精神障害・認知症に応じたコミュニケーション技術について学ぶ。	5.5 0.5	通信 5週目 通学 17週目	介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション	チームマネジメントの理解と活用、チームコミュニケーション、記録による情報の共有化、報告・連絡・相談による情報の共有化、会議による情報の共有化について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																						
1.5 0.5	通信 4週目 通学 17週目	介護におけるコミュニケーション	コミュニケーションの意義・目的・役割・技法、支援関係の構築と意思決定の支援について学ぶ。																						
5.5 0.5	通信 4週目 通学 17週目	介護におけるコミュニケーション技術	話を聴く技法、利用者の感情表現を察する方法、利用者の納得と同意を得る技法、質問の技法、相談・助言・指導の技法、利用者の意欲を引く出す技法、利用者の家族の意向を調整する技法を学ぶ。																						
5.5 0.5	通信 4～5週目 通学 17週目	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	コミュニケーション障害、視覚・聴覚・構音障害・失語症・高次脳機能障害・知的障害・精神障害・認知症に応じたコミュニケーション技術について学ぶ。																						
5.5 0.5	通信 5週目 通学 17週目	介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション	チームマネジメントの理解と活用、チームコミュニケーション、記録による情報の共有化、報告・連絡・相談による情報の共有化、会議による情報の共有化について学ぶ。																						
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																						

## 授業概要

科目名	生活支援技術Ⅰ	授業の種類	通学・通信	必修・選択	必修																																				
授業担当者	大淵 忍・川口 登紀子	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目																																				
授業の目的 ・狙い	IFCの理解を前提としながら、ボディメカニクスの活用まで含め、介護の基本技術と住環境の整備や福祉用具の活用について把握する。																																								
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生活支援とICF</li> <li>② 住環境の整備と福祉用具の活用</li> <li>③ 移動・移乗の生活支援技術の基本</li> <li>④ 食事の生活支援技術の基本</li> <li>⑤ 入浴・清潔保持の生活支援技術の基本</li> <li>⑥ 排泄の生活支援技術の基本</li> <li>⑦ 着脱・整容・口腔清潔の生活支援技術の基本</li> <li>⑧ 家事援助の基本</li> </ul>																																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。</li> <li>・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</li> <li>・自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗・食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得している。</li> <li>・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。</li> </ul>																																								
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 20%;">学習テーマ</th> <th style="width: 60%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 17週目</td> <td>生活支援とICF</td> <td>生活支援とアセスメント、ICFの視点とアセスメントについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>1.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 17週目</td> <td>住環境の整備と福祉用具の活用</td> <td>居住環境の意義、生活空間の介護、福祉用具の活用について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>1.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 18週目</td> <td>移動・移乗の生活支援技術の基本</td> <td>移動・移乗を行うにあたって必要なこと、体位交換の介助、車いすの介助、歩行の介助について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>1.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 18週目</td> <td>食事の生活支援技術の基本</td> <td>食事介助を行うにあたって必要なこと、食事の介助について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 18週目</td> <td>入浴・清潔保持の生活支援技術の基本</td> <td>入浴の介助を行うにあたって必要なこと、入浴の介助、部分</td> </tr> <tr> <td>2.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 18週目</td> <td>排泄の生活支援技術の基本</td> <td>排泄の介助を行うにあたって必要なこと、排泄の介助について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 18週目</td> <td>着脱・整容・口腔清潔の生活支援技術の基本</td> <td>身じたくの介助を行うにあたって必要なこと、衣類着脱の介助、整容の介助、口腔清潔の介助について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2.5 0.5</td> <td>通信 5週目 通学 18週目</td> <td>家事援助の基本</td> <td>生活と家事、調理、洗濯、掃除・ごみ捨て、衣類の補修・裁縫・衣類・寝具の衛生管理、買い物の援助について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	1.5 0.5	通信 5週目 通学 17週目	生活支援とICF	生活支援とアセスメント、ICFの視点とアセスメントについて学ぶ。	1.5 0.5	通信 5週目 通学 17週目	住環境の整備と福祉用具の活用	居住環境の意義、生活空間の介護、福祉用具の活用について学ぶ。	1.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	移動・移乗の生活支援技術の基本	移動・移乗を行うにあたって必要なこと、体位交換の介助、車いすの介助、歩行の介助について学ぶ。	1.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	食事の生活支援技術の基本	食事介助を行うにあたって必要なこと、食事の介助について学ぶ。	2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	入浴・清潔保持の生活支援技術の基本	入浴の介助を行うにあたって必要なこと、入浴の介助、部分	2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	排泄の生活支援技術の基本	排泄の介助を行うにあたって必要なこと、排泄の介助について学ぶ。	2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	着脱・整容・口腔清潔の生活支援技術の基本	身じたくの介助を行うにあたって必要なこと、衣類着脱の介助、整容の介助、口腔清潔の介助について学ぶ。	2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	家事援助の基本	生活と家事、調理、洗濯、掃除・ごみ捨て、衣類の補修・裁縫・衣類・寝具の衛生管理、買い物の援助について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																																						
1.5 0.5	通信 5週目 通学 17週目	生活支援とICF	生活支援とアセスメント、ICFの視点とアセスメントについて学ぶ。																																						
1.5 0.5	通信 5週目 通学 17週目	住環境の整備と福祉用具の活用	居住環境の意義、生活空間の介護、福祉用具の活用について学ぶ。																																						
1.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	移動・移乗の生活支援技術の基本	移動・移乗を行うにあたって必要なこと、体位交換の介助、車いすの介助、歩行の介助について学ぶ。																																						
1.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	食事の生活支援技術の基本	食事介助を行うにあたって必要なこと、食事の介助について学ぶ。																																						
2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	入浴・清潔保持の生活支援技術の基本	入浴の介助を行うにあたって必要なこと、入浴の介助、部分																																						
2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	排泄の生活支援技術の基本	排泄の介助を行うにあたって必要なこと、排泄の介助について学ぶ。																																						
2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	着脱・整容・口腔清潔の生活支援技術の基本	身じたくの介助を行うにあたって必要なこと、衣類着脱の介助、整容の介助、口腔清潔の介助について学ぶ。																																						
2.5 0.5	通信 5週目 通学 18週目	家事援助の基本	生活と家事、調理、洗濯、掃除・ごみ捨て、衣類の補修・裁縫・衣類・寝具の衛生管理、買い物の援助について学ぶ。																																						
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																																						

## 授業概要

科目名	生活支援技術Ⅱ	授業の種類	通信	必修・選択	必修																																				
授業担当者	大淵 忍・川口 登紀子	時間数 (単位数)	30時間	配当時期	1～6月目																																				
授業の目的・狙い	利用者の心身の状態に合わせた基本技術の展開と福祉用具の活用や住環境の整備などについて実践を念頭に理解する。																																								
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境整備と福祉用具等の活用</li> <li>② 移動・移乗の生活支援技術</li> <li>③ 食事の生活支援技術</li> <li>④ 入浴・清潔保持の生活支援技術</li> <li>⑤ 排泄の生活支援技術</li> <li>⑥ 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術</li> <li>⑦ 休息・睡眠の生活支援技術</li> <li>⑧ 人生の最終段階における介護の生活支援技術</li> </ul>																																								
到達目標	「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具等の活用」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。																																								
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.0</td> <td>通信 6週目</td> <td>環境整備と福祉用具等の活用</td> <td>利用者に適した生活環境の整備、利用者に適した福祉用具の選定について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 6週目</td> <td>移動・移乗の生活支援技術</td> <td>体位交換・車いす・歩行の介助、安楽な体位の保持と褥瘡の予防、移動・以上に関する福祉用具とその活用方法について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 6週目</td> <td>食事の生活支援技術</td> <td>食事の介助、食事に関する福祉用具とその活用方法、誤嚥・窒息の予防、脱水の予防について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 6週目</td> <td>入浴・清潔保持の生活支援技術</td> <td>入浴の介助、入浴に関する福祉用具とその活用方法について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 6週目</td> <td>排泄の生活支援技術</td> <td>排泄の介助、排泄に関する福祉用具とその活用方法、頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応、その他の排泄に関するさまざまな解除について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 6～7週目</td> <td>着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術</td> <td>衣類着脱・整容・口腔清潔の介助について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 7週目</td> <td>休息・睡眠の生活支援技術</td> <td>休息・睡眠の介助を行うにあたって必要なこと、睡眠の介助、睡眠に関する用具とその活用方法、睡眠と薬について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 7週目</td> <td>人生の最終段階における介護の生活支援技術</td> <td>人生の最終段階における介護を行うにあたって必要なこと、人生の最終段階の介護、介護職・家族への支援について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	2.0	通信 6週目	環境整備と福祉用具等の活用	利用者に適した生活環境の整備、利用者に適した福祉用具の選定について学ぶ。	5.0	通信 6週目	移動・移乗の生活支援技術	体位交換・車いす・歩行の介助、安楽な体位の保持と褥瘡の予防、移動・以上に関する福祉用具とその活用方法について学ぶ。	3.0	通信 6週目	食事の生活支援技術	食事の介助、食事に関する福祉用具とその活用方法、誤嚥・窒息の予防、脱水の予防について学ぶ。	4.0	通信 6週目	入浴・清潔保持の生活支援技術	入浴の介助、入浴に関する福祉用具とその活用方法について学ぶ。	4.0	通信 6週目	排泄の生活支援技術	排泄の介助、排泄に関する福祉用具とその活用方法、頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応、その他の排泄に関するさまざまな解除について学ぶ。	4.0	通信 6～7週目	着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術	衣類着脱・整容・口腔清潔の介助について学ぶ。	4.0	通信 7週目	休息・睡眠の生活支援技術	休息・睡眠の介助を行うにあたって必要なこと、睡眠の介助、睡眠に関する用具とその活用方法、睡眠と薬について学ぶ。	4.0	通信 7週目	人生の最終段階における介護の生活支援技術	人生の最終段階における介護を行うにあたって必要なこと、人生の最終段階の介護、介護職・家族への支援について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																																						
2.0	通信 6週目	環境整備と福祉用具等の活用	利用者に適した生活環境の整備、利用者に適した福祉用具の選定について学ぶ。																																						
5.0	通信 6週目	移動・移乗の生活支援技術	体位交換・車いす・歩行の介助、安楽な体位の保持と褥瘡の予防、移動・以上に関する福祉用具とその活用方法について学ぶ。																																						
3.0	通信 6週目	食事の生活支援技術	食事の介助、食事に関する福祉用具とその活用方法、誤嚥・窒息の予防、脱水の予防について学ぶ。																																						
4.0	通信 6週目	入浴・清潔保持の生活支援技術	入浴の介助、入浴に関する福祉用具とその活用方法について学ぶ。																																						
4.0	通信 6週目	排泄の生活支援技術	排泄の介助、排泄に関する福祉用具とその活用方法、頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応、その他の排泄に関するさまざまな解除について学ぶ。																																						
4.0	通信 6～7週目	着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術	衣類着脱・整容・口腔清潔の介助について学ぶ。																																						
4.0	通信 7週目	休息・睡眠の生活支援技術	休息・睡眠の介助を行うにあたって必要なこと、睡眠の介助、睡眠に関する用具とその活用方法、睡眠と薬について学ぶ。																																						
4.0	通信 7週目	人生の最終段階における介護の生活支援技術	人生の最終段階における介護を行うにあたって必要なこと、人生の最終段階の介護、介護職・家族への支援について学ぶ。																																						
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																																						

## 授業概要

科目名	介護過程Ⅰ	授業の種類	通学・通信	必修・選択	必修																
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目																
授業の目的 ・狙い	介護過程の流れについてひととおり理解したうえで、ケアマネジメントのもと、チームで展開する際のポイントまで把握する。																				
授業の内容	① 介護過程の意義と目的 ② 介護過程の展開 ③ 介護過程とチームアプローチ																				
到達目標	・介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。																				
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">日程</th> <th style="text-align: center;">学習テーマ</th> <th style="text-align: center;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3.5  0.5</td> <td style="text-align: center;">通信 7週目 通学 18週目</td> <td style="text-align: center;">介護過程の意義と 目的</td> <td style="text-align: center;">介護の概念の見直し、根拠にもとづいた介護の実践、 介護過程の必要性について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7.0  1.0</td> <td style="text-align: center;">通信 7～8週目 通学 18週目</td> <td style="text-align: center;">介護過程の展開</td> <td style="text-align: center;">介護過程の展開イメージ、アセスメント、計画の立案、 実施、評価について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7.0  1.0</td> <td style="text-align: center;">通信 8週目 通学 18週目</td> <td style="text-align: center;">介護過程とチーム アプローチ</td> <td style="text-align: center;">介護過程とケアマネジメントの関係性、介護過程と チームアプローチについて学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	3.5  0.5	通信 7週目 通学 18週目	介護過程の意義と 目的	介護の概念の見直し、根拠にもとづいた介護の実践、 介護過程の必要性について学ぶ。	7.0  1.0	通信 7～8週目 通学 18週目	介護過程の展開	介護過程の展開イメージ、アセスメント、計画の立案、 実施、評価について学ぶ。	7.0  1.0	通信 8週目 通学 18週目	介護過程とチーム アプローチ	介護過程とケアマネジメントの関係性、介護過程と チームアプローチについて学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																		
3.5  0.5	通信 7週目 通学 18週目	介護過程の意義と 目的	介護の概念の見直し、根拠にもとづいた介護の実践、 介護過程の必要性について学ぶ。																		
7.0  1.0	通信 7～8週目 通学 18週目	介護過程の展開	介護過程の展開イメージ、アセスメント、計画の立案、 実施、評価について学ぶ。																		
7.0  1.0	通信 8週目 通学 18週目	介護過程とチーム アプローチ	介護過程とケアマネジメントの関係性、介護過程と チームアプローチについて学ぶ。																		
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																		

## 授業概要

科目名	介護過程Ⅱ	授業の種類	通学・通信	必修・選択	必修																								
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	25時間	配当時期	1～6月目																								
授業の目的 ・狙い	個々の利用者の障害特性（心身状態）や生活の場（環境的側面）をICFの視点からとらえ、生活課題を明らかにしたうえで介護計画（個別援助計画）を作成していく。そうした介護過程の展開の実際を、事例による疑似地検もふまえて理解する。																												
授業の内容	① 介護職による介護過程の進め方 ② 介護過程の実践的展開 ③ 施設で暮らす高齢者の介護過程 ④ 在宅で暮らす高齢者の介護過程 ⑤ 演習課題：介護老人福祉施設で生活するGさんの事例																												
到達目標	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。																												
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.5 0.5</td> <td>通信 8週目 通学 18週目</td> <td>介護職による介護過程の進め方</td> <td>日々の実践のなかにある介護過程、思考過程の訓練、ケアマネジメントをふまえた介護過程の展開を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>0.5 0.5</td> <td>通信 8週目 通学 18週目</td> <td>介護過程の実践的展開</td> <td>事例による介護過程の展開、取り上げる事例と構成を用いて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0 1.0</td> <td>通信 8週目 通学 19週目</td> <td>施設で暮らす高齢者の介護過程</td> <td>利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Aさんのフェイスシート、Aさんのアセスメント表(1)、アセスメント表(2)作成におけるヒント、Aさんのアセスメント表(2)、Aさんの介護計画書、Aさんの実施評価表、Aさんの介護過程についての解説等、事例を用い学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0 1.0</td> <td>通信 8週目 通学 19週目</td> <td>在宅で暮らす高齢者の介護過程</td> <td>利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Dさんのフェイスシート、Dさんのアセスメント表(1)、アセスメント表(2)作成におけるヒント、Dさんのアセスメント表(2)、Dさんの介護計画書、Dさんの実施評価表、Dさんの介護過程についての解説等、事例を用い学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>8.0 2.0</td> <td>通信 9週目 通学 19週目</td> <td>演習課題：介護老人福祉施設で生活するGさんの事例</td> <td>利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Gさんのフェイスシート、Gさんのアセスメント表(1)、Gさんのアセスメント表(2)、Gさんの介護計画書を実際に作成しながら学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	1.5 0.5	通信 8週目 通学 18週目	介護職による介護過程の進め方	日々の実践のなかにある介護過程、思考過程の訓練、ケアマネジメントをふまえた介護過程の展開を学ぶ。	0.5 0.5	通信 8週目 通学 18週目	介護過程の実践的展開	事例による介護過程の展開、取り上げる事例と構成を用いて学ぶ。	5.0 1.0	通信 8週目 通学 19週目	施設で暮らす高齢者の介護過程	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Aさんのフェイスシート、Aさんのアセスメント表(1)、アセスメント表(2)作成におけるヒント、Aさんのアセスメント表(2)、Aさんの介護計画書、Aさんの実施評価表、Aさんの介護過程についての解説等、事例を用い学ぶ。	5.0 1.0	通信 8週目 通学 19週目	在宅で暮らす高齢者の介護過程	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Dさんのフェイスシート、Dさんのアセスメント表(1)、アセスメント表(2)作成におけるヒント、Dさんのアセスメント表(2)、Dさんの介護計画書、Dさんの実施評価表、Dさんの介護過程についての解説等、事例を用い学ぶ。	8.0 2.0	通信 9週目 通学 19週目	演習課題：介護老人福祉施設で生活するGさんの事例	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Gさんのフェイスシート、Gさんのアセスメント表(1)、Gさんのアセスメント表(2)、Gさんの介護計画書を実際に作成しながら学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																										
1.5 0.5	通信 8週目 通学 18週目	介護職による介護過程の進め方	日々の実践のなかにある介護過程、思考過程の訓練、ケアマネジメントをふまえた介護過程の展開を学ぶ。																										
0.5 0.5	通信 8週目 通学 18週目	介護過程の実践的展開	事例による介護過程の展開、取り上げる事例と構成を用いて学ぶ。																										
5.0 1.0	通信 8週目 通学 19週目	施設で暮らす高齢者の介護過程	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Aさんのフェイスシート、Aさんのアセスメント表(1)、アセスメント表(2)作成におけるヒント、Aさんのアセスメント表(2)、Aさんの介護計画書、Aさんの実施評価表、Aさんの介護過程についての解説等、事例を用い学ぶ。																										
5.0 1.0	通信 8週目 通学 19週目	在宅で暮らす高齢者の介護過程	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Dさんのフェイスシート、Dさんのアセスメント表(1)、アセスメント表(2)作成におけるヒント、Dさんのアセスメント表(2)、Dさんの介護計画書、Dさんの実施評価表、Dさんの介護過程についての解説等、事例を用い学ぶ。																										
8.0 2.0	通信 9週目 通学 19週目	演習課題：介護老人福祉施設で生活するGさんの事例	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Gさんのフェイスシート、Gさんのアセスメント表(1)、Gさんのアセスメント表(2)、Gさんの介護計画書を実際に作成しながら学ぶ。																										
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																										

## 授業概要

科目名	介護過程Ⅲ	授業の種類	通学	必修・選択	必修																								
授業担当者	野田 寿子・大淵 忍	時間数 (単位数)	45時間	配当時期	1～6月目																								
授業の目的 ・狙い	介護過程について十分に理解したうえで、原理・原則を踏まえた知識と技術を総合的に活用しながら、一連の過程を利用者の心身の状況に応じて実践したものを評価する。																												
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開</li> <li>② 事例：1 片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援</li> <li>③ 事例：2 在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援</li> <li>④ 事例：3 都会に住む一人暮らし高齢者の生活支援</li> <li>⑤ 事例：4 介護老人保健施設で生活する利用者への支援</li> </ul>																												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</li> <li>・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。</li> <li>・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止・家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。</li> <li>・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</li> </ul>																												
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 30%;">学習テーマ</th> <th style="width: 50%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.0</td> <td>通学 19週目</td> <td>利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開</td> <td>利用者のさまざまな暮らしと介護過程の展開を学び、事例の特徴、演習の進め方等、次コマ以降の課題にむけた説明を行う。</td> </tr> <tr> <td>11.0</td> <td>通学 19～21週目</td> <td>事例：1 片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援</td> <td>利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Jさんのフェイスシート、Jさんのアセスメント表(1)、Jさんのアセスメント表(2)、Jさんの介護計画書、Jさんの実施評価表、Jさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、移動・移乗の介護について演習を用い確認・評価を行う。</td> </tr> <tr> <td>11.0</td> <td>通学 21～22週目</td> <td>事例：2 在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援</td> <td>利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Lさんのフェイスシート、Lさんのアセスメント表(1)、Lさんのアセスメント表(3)、Lさんの介護計画書、Lさんの実施評価表、Lさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、食事・身だしなみ・排泄の介護について演習を用い確認・評価を行う。</td> </tr> <tr> <td>11.0</td> <td>通学 22～24週目</td> <td>事例：3 都会に住む一人暮らし高齢者の生活支援</td> <td>利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Nさんのフェイスシート、Nさんのアセスメント表(1)、Nさんのアセスメント表(4)、Nさんの介護計画書、Nさんの実施評価表、Nさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、移動・移乗・排泄の介護について演習を用い確認・評価を行う。</td> </tr> <tr> <td>11.0</td> <td>通学 24～25週目</td> <td>事例：4 介護老人保健施設で生活する利用者への支援</td> <td>利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Qさんのフェイスシート、Qさんのアセスメント表(1)、Qさんのアセスメント表(5)、Qさんの介護計画書、Qさんの実施評価表、Qさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、衣類の着脱・入浴の介護について演習を用い確認・評価を行う。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	1.0	通学 19週目	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	利用者のさまざまな暮らしと介護過程の展開を学び、事例の特徴、演習の進め方等、次コマ以降の課題にむけた説明を行う。	11.0	通学 19～21週目	事例：1 片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Jさんのフェイスシート、Jさんのアセスメント表(1)、Jさんのアセスメント表(2)、Jさんの介護計画書、Jさんの実施評価表、Jさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、移動・移乗の介護について演習を用い確認・評価を行う。	11.0	通学 21～22週目	事例：2 在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Lさんのフェイスシート、Lさんのアセスメント表(1)、Lさんのアセスメント表(3)、Lさんの介護計画書、Lさんの実施評価表、Lさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、食事・身だしなみ・排泄の介護について演習を用い確認・評価を行う。	11.0	通学 22～24週目	事例：3 都会に住む一人暮らし高齢者の生活支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Nさんのフェイスシート、Nさんのアセスメント表(1)、Nさんのアセスメント表(4)、Nさんの介護計画書、Nさんの実施評価表、Nさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、移動・移乗・排泄の介護について演習を用い確認・評価を行う。	11.0	通学 24～25週目	事例：4 介護老人保健施設で生活する利用者への支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Qさんのフェイスシート、Qさんのアセスメント表(1)、Qさんのアセスメント表(5)、Qさんの介護計画書、Qさんの実施評価表、Qさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、衣類の着脱・入浴の介護について演習を用い確認・評価を行う。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																										
1.0	通学 19週目	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	利用者のさまざまな暮らしと介護過程の展開を学び、事例の特徴、演習の進め方等、次コマ以降の課題にむけた説明を行う。																										
11.0	通学 19～21週目	事例：1 片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Jさんのフェイスシート、Jさんのアセスメント表(1)、Jさんのアセスメント表(2)、Jさんの介護計画書、Jさんの実施評価表、Jさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、移動・移乗の介護について演習を用い確認・評価を行う。																										
11.0	通学 21～22週目	事例：2 在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Lさんのフェイスシート、Lさんのアセスメント表(1)、Lさんのアセスメント表(3)、Lさんの介護計画書、Lさんの実施評価表、Lさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、食事・身だしなみ・排泄の介護について演習を用い確認・評価を行う。																										
11.0	通学 22～24週目	事例：3 都会に住む一人暮らし高齢者の生活支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Nさんのフェイスシート、Nさんのアセスメント表(1)、Nさんのアセスメント表(4)、Nさんの介護計画書、Nさんの実施評価表、Nさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、移動・移乗・排泄の介護について演習を用い確認・評価を行う。																										
11.0	通学 24～25週目	事例：4 介護老人保健施設で生活する利用者への支援	利用者のプロフィール、家族構成および生活歴、現在の状況、Qさんのフェイスシート、Qさんのアセスメント表(1)、Qさんのアセスメント表(5)、Qさんの介護計画書、Qさんの実施評価表、Qさんの介護過程についての解説等、事例を用いて学び、衣類の着脱・入浴の介護について演習を用い確認・評価を行う。																										
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト		評価基準	添削問題 70点以上で合格 実技評価 演習を実施し、一定の基準に達した者が合格																									

## 授業概要

科目名	発達と老化の理解Ⅰ	授業の種類	通信	必修・選択	必修												
授業担当者	田島 俊信	時間数 (単位数)	10時間	配当時期	1～6月目												
授業の目的 ・狙い	老化によるこころとからだの変化の特徴と日常生活の影響について理解する。																
授業の内容	① こころの変化と日常生活への影響 ② からだの変化と日常生活への影響																
到達目標	・老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ・老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響について理解している。																
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 20%;">学習テーマ</th> <th style="width: 60%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 9週目</td> <td>こころの変化と日常生活への影響</td> <td>老化が及ぼす心理的影響、自己概念と生きがいについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>6.0</td> <td>通信 9週目</td> <td>からだの変化と日常生活への影響</td> <td>加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響、さまざまな機能の変化について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	4.0	通信 9週目	こころの変化と日常生活への影響	老化が及ぼす心理的影響、自己概念と生きがいについて学ぶ。	6.0	通信 9週目	からだの変化と日常生活への影響	加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響、さまざまな機能の変化について学ぶ。
	コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法													
	4.0	通信 9週目	こころの変化と日常生活への影響	老化が及ぼす心理的影響、自己概念と生きがいについて学ぶ。													
6.0	通信 9週目	からだの変化と日常生活への影響	加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響、さまざまな機能の変化について学ぶ。														
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。														

## 授業概要

科目名	発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類	通信	必修・選択	必修
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目
授業の目的 ・狙い	発達の定義・段階・課題等を踏まえたうえで、老年期に特有の心理的課題や症状・疾病等の支援の留意点について理解している。				
授業の内容	① 人間の成長・発達 ② 老年期の発達・成熟と心理 ③ 高齢者に多くみられる症状・疾病等				
到達目標	・ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ・老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している・ ・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。				
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
	3.0	通信 10週目	人間の成長・発達	発達の定義、発達段階と発達課題、各ライフサイクルの発達について学ぶ。	
	3.0	通信 10週目	老年期の発達・成熟と心理	老年期の定義、老年期の心理的課題と適応、要介護状態と高齢者の心理、不適応状態を緩和する心理について学ぶ。	
	14.0	通信 10週目	高齢者に多くみられる症状・疾病等	高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点、介護を要する高齢者によくみられる病気・病態について学ぶ。	
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト		評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。	

## 授業概要

科目名	認知症の理解Ⅰ	授業の種類	通信	必修・選択	必修																
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	10時間	配当時期	1～6月目																
授業の目的 ・狙い	今日的な認知症ケアの理念をベースに、生活上の障害や心理・行動の特徴を踏まえつつ、認知症の人や家族に対する関わり方の基本を理解する。																				
授業の内容	① 認知症ケアの理念と視点 ② 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③ 認知症の人との関わり・支援の基本																				
到達目標	・ 認知症ケアの取組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ・ 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ・ 認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。																				
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 11週目</td> <td>認知症ケアの理念と 視点</td> <td>認知症ケアを取り巻く状況、認知症ケアの理念、認知症ケアの視点について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 11週目</td> <td>認知症による生活 障害、心理・行動 の特徴</td> <td>「人」と「生活」、認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか、認知症の中核症状、行動・心理症状（BPSD）、意識障害、生活障害について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 11週目</td> <td>認知症の人との関わり・支援の基本</td> <td>認知症の人に関わる際の前提、実際の関わり方の基本、家族への支援について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	3.0	通信 11週目	認知症ケアの理念と 視点	認知症ケアを取り巻く状況、認知症ケアの理念、認知症ケアの視点について学ぶ。	4.0	通信 11週目	認知症による生活 障害、心理・行動 の特徴	「人」と「生活」、認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか、認知症の中核症状、行動・心理症状（BPSD）、意識障害、生活障害について学ぶ。	3.0	通信 11週目	認知症の人との関わり・支援の基本	認知症の人に関わる際の前提、実際の関わり方の基本、家族への支援について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																		
3.0	通信 11週目	認知症ケアの理念と 視点	認知症ケアを取り巻く状況、認知症ケアの理念、認知症ケアの視点について学ぶ。																		
4.0	通信 11週目	認知症による生活 障害、心理・行動 の特徴	「人」と「生活」、認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか、認知症の中核症状、行動・心理症状（BPSD）、意識障害、生活障害について学ぶ。																		
3.0	通信 11週目	認知症の人との関わり・支援の基本	認知症の人に関わる際の前提、実際の関わり方の基本、家族への支援について学ぶ。																		
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																		

## 授業概要

科目名	認知症の理解 II	授業の種類	通信	必修・選択	必修												
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目												
授業の目的 ・狙い	認知症に対する一般的な医療的知識を有したうえで、家族や社会関係まで含めてアセスメントし、状況に応じた支援を行っていくことを理解する。その際には、地域のサポート体制を活用することも念頭に置く。																
授業の内容	① 医学的側面からみた認知症の理解 ② 認知症の人への支援の実際																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</li> <li>・ 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。</li> <li>・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>																
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 20%;">学習テーマ</th> <th style="width: 60%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10.0</td> <td>通信 11週目</td> <td>医学的側面からみた 認知症の理解</td> <td>認知症、認知症の診断、認知症の原因疾患とその病態、認知症の治療と予防について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>10.0</td> <td>通信 12週目</td> <td>認知症の人への支援 の実際</td> <td>認知症のアセスメント、中核症状へのかかわり方の実際、BPSD（行動・心理症状）へのかかわり方の実際、環境の整備、認知症ケアにおけるチームアプローチ、認知症の人へのさまざまなアプローチ、地域生活の支援について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	10.0	通信 11週目	医学的側面からみた 認知症の理解	認知症、認知症の診断、認知症の原因疾患とその病態、認知症の治療と予防について学ぶ。	10.0	通信 12週目	認知症の人への支援 の実際	認知症のアセスメント、中核症状へのかかわり方の実際、BPSD（行動・心理症状）へのかかわり方の実際、環境の整備、認知症ケアにおけるチームアプローチ、認知症の人へのさまざまなアプローチ、地域生活の支援について学ぶ。
	コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法													
10.0	通信 11週目	医学的側面からみた 認知症の理解	認知症、認知症の診断、認知症の原因疾患とその病態、認知症の治療と予防について学ぶ。														
10.0	通信 12週目	認知症の人への支援 の実際	認知症のアセスメント、中核症状へのかかわり方の実際、BPSD（行動・心理症状）へのかかわり方の実際、環境の整備、認知症ケアにおけるチームアプローチ、認知症の人へのさまざまなアプローチ、地域生活の支援について学ぶ。														
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。														

## 授業概要

科目名	障害の理解Ⅰ	授業の種類	通信	必修・選択	必修																
授業担当者	川口 和宏	時間数 (単位数)	10時間	配当時期	1～6月目																
授業の目的・狙い	今日的な障害者福祉の理念のもと、さまざまな障害ゆえの生活上の不具合や心理・行動の特徴を踏まえ、当事者や家族に対する支援の基本を理解する。																				
授業の内容	① 障害者福祉の理念 ② 障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③ 障害のある人や家族への関わり・支援の基本																				
到達目標	・ 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ・ 障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ・ 障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。																				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 20%;">学習テーマ</th> <th style="width: 60%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 12週目</td> <td>障害者福祉の理念</td> <td>「障害」のとらえ方、国際障害分類と国際生活機能分類、障害福祉の基本理念、障害の法的定義について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 12週目</td> <td>障害による生活障害、心理・行動の特徴</td> <td>身体障害・知的障害・精神障害・高次脳機能障害・発達障害による生活上の障害と心理・行動の特徴、難病による心理・行動の特徴について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>通信 12週目</td> <td>障害のある人や家族への関わり・支援の基本</td> <td>障害のある人への関わり・支援の基本、家族の理解と障害の受容支援、介護負担の軽減について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	3.0	通信 12週目	障害者福祉の理念	「障害」のとらえ方、国際障害分類と国際生活機能分類、障害福祉の基本理念、障害の法的定義について学ぶ。	5.0	通信 12週目	障害による生活障害、心理・行動の特徴	身体障害・知的障害・精神障害・高次脳機能障害・発達障害による生活上の障害と心理・行動の特徴、難病による心理・行動の特徴について学ぶ。	2.0	通信 12週目	障害のある人や家族への関わり・支援の基本	障害のある人への関わり・支援の基本、家族の理解と障害の受容支援、介護負担の軽減について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																		
3.0	通信 12週目	障害者福祉の理念	「障害」のとらえ方、国際障害分類と国際生活機能分類、障害福祉の基本理念、障害の法的定義について学ぶ。																		
5.0	通信 12週目	障害による生活障害、心理・行動の特徴	身体障害・知的障害・精神障害・高次脳機能障害・発達障害による生活上の障害と心理・行動の特徴、難病による心理・行動の特徴について学ぶ。																		
2.0	通信 12週目	障害のある人や家族への関わり・支援の基本	障害のある人への関わり・支援の基本、家族の理解と障害の受容支援、介護負担の軽減について学ぶ。																		
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																		

## 授業概要

科目名	障害の理解 II	授業の種類	通信	必修・選択	必修												
授業担当者	川口 和宏	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目												
授業の目的 ・狙い	様々な障害についての医学的知識の把握を前提に、当事者の障害や環境についてアセスメントを行い、地域のサポート体制も活用しつつ支援していくことを理解する。																
授業の内容	① 医学的側面からみた障害の理解 ② 障害の特性に応じた支援の実際																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。</li> <li>・ 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>																
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15.0</td> <td>通信 13週目</td> <td>医学的側面からみた 障害の理解</td> <td>視覚・聴覚・言語・運動機能・心臓機能・呼吸機能・腎臓機能・膀胱機能・直腸機能・小腸機能・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能・肝臓機能・知的・精神・高次脳機能・発達障害、難病について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 13週目</td> <td>障害の特性に応じた 支援の実際</td> <td>アセスメントの視点と個別支援、障害のある人がふつうに暮らせる地域づくり、地域におけるサポート体制について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	15.0	通信 13週目	医学的側面からみた 障害の理解	視覚・聴覚・言語・運動機能・心臓機能・呼吸機能・腎臓機能・膀胱機能・直腸機能・小腸機能・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能・肝臓機能・知的・精神・高次脳機能・発達障害、難病について学ぶ。	5.0	通信 13週目	障害の特性に応じた 支援の実際	アセスメントの視点と個別支援、障害のある人がふつうに暮らせる地域づくり、地域におけるサポート体制について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法														
15.0	通信 13週目	医学的側面からみた 障害の理解	視覚・聴覚・言語・運動機能・心臓機能・呼吸機能・腎臓機能・膀胱機能・直腸機能・小腸機能・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能・肝臓機能・知的・精神・高次脳機能・発達障害、難病について学ぶ。														
5.0	通信 13週目	障害の特性に応じた 支援の実際	アセスメントの視点と個別支援、障害のある人がふつうに暮らせる地域づくり、地域におけるサポート体制について学ぶ。														
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。														

## 授業概要

科目名	こころとからだのしくみⅠ	授業の種類	通信	必修・選択	必修																												
授業担当者	大淵 忍・川口 登紀子	時間数 (単位数)	20時間	配当時期	1～6月目																												
授業の目的 ・狙い	移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱・整容・口腔清潔、睡眠に関連するからだのしくみなど、介護職が支援を行う際に前提となる身体の機能と構造について理解する。																																
授業の内容	① 移動・移乗に関連するからだのしくみ ② 食事に関連するからだのしくみ ③ 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ ④ 排泄に関連するからだのしくみ ⑤ 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ ⑥ 休息・睡眠に関連するからだのしくみ																																
到達目標	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。																																
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 14週目</td> <td>移動・移乗に関連するからだのしくみ</td> <td>基本的な姿勢、基本的な体のしくみについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 14週目</td> <td>食事に関連するからだのしくみ</td> <td>基本的なからだのしくみ、栄養素とエネルギー、代償的な栄養摂取法について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 14週目</td> <td>入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ</td> <td>基本的なからだのしくみ、入浴と清潔保持の意味について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 14週目</td> <td>排泄に関連するからだのしくみ</td> <td>基本的なからだのしくみについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>通信 14週目</td> <td>着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ</td> <td>基本的なからだのしくみ、着脱、整容、口腔清潔の意味について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>通信 14週目</td> <td>休息・睡眠に関連するからだのしくみ</td> <td>基本的なからだのしくみ、こころのしくみについて学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	4.0	通信 14週目	移動・移乗に関連するからだのしくみ	基本的な姿勢、基本的な体のしくみについて学ぶ。	3.0	通信 14週目	食事に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、栄養素とエネルギー、代償的な栄養摂取法について学ぶ。	3.0	通信 14週目	入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、入浴と清潔保持の意味について学ぶ。	3.0	通信 14週目	排泄に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみについて学ぶ。	4.0	通信 14週目	着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、着脱、整容、口腔清潔の意味について学ぶ。	3.0	通信 14週目	休息・睡眠に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、こころのしくみについて学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																														
4.0	通信 14週目	移動・移乗に関連するからだのしくみ	基本的な姿勢、基本的な体のしくみについて学ぶ。																														
3.0	通信 14週目	食事に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、栄養素とエネルギー、代償的な栄養摂取法について学ぶ。																														
3.0	通信 14週目	入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、入浴と清潔保持の意味について学ぶ。																														
3.0	通信 14週目	排泄に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみについて学ぶ。																														
4.0	通信 14週目	着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、着脱、整容、口腔清潔の意味について学ぶ。																														
3.0	通信 14週目	休息・睡眠に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、こころのしくみについて学ぶ。																														
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																														

## 授業概要

科目名	こころとからだのしくみⅡ	授業の種類	通信	必修・選択	必修																																								
授業担当者	野田 寿子	時間数 (単位数)	60時間	配当時期	1～6月目																																								
授業の目的・狙い	人間の基本的な欲求や学習・記憶、ボディメカニクス等、心身の構造と機能、特徴を把握したうえで、アセスメントや観察、他職種との連携などを駆使しながら展開する介護についての理解を深める。																																												
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 人間の心理</li> <li>② 人体の構造と機能</li> <li>③ 移動・移乗における観察のポイント</li> <li>④ 食事における観察のポイント</li> <li>⑤ 入浴・清潔保持における観察のポイント</li> <li>⑥ 排泄における観察のポイント</li> <li>⑦ 着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント</li> <li>⑧ 休息・睡眠における観察のポイント</li> <li>⑨ 人生の最終段階のケアにおける観察のポイント</li> </ul>																																												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。</li> <li>・生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。</li> <li>・身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。</li> </ul>																																												
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10.0</td> <td>通信 15週目</td> <td>人間の心理</td> <td>人間の欲求の基本的理解、こころのしくみの基礎について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>14.0</td> <td>通信 15～16週目</td> <td>人体の構造と機能</td> <td>生命の維持・恒常のしくみ、人間のからだのしくみ、ボディメカニクスの課長について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 16週目</td> <td>移動・移乗における観察のポイント</td> <td>移動・移乗を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 16週目</td> <td>食事における観察のポイント</td> <td>食事を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 16週目</td> <td>入浴・清潔保持における観察のポイント</td> <td>入浴を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 16～17週目</td> <td>排泄における観察のポイント</td> <td>排泄を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 17週目</td> <td>着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント</td> <td>身じたくを阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>6.0</td> <td>通信 17～18週目</td> <td>休息・睡眠における観察のポイント</td> <td>睡眠を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイントについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>通信 18週目</td> <td>人生の最終段階のケアにおける観察のポイント</td> <td>終末期、こころのしくみ、終末期から危篤状態の変化の特徴、死後の対応、医療職との連携のポイント、家族へのケアについて学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	10.0	通信 15週目	人間の心理	人間の欲求の基本的理解、こころのしくみの基礎について学ぶ。	14.0	通信 15～16週目	人体の構造と機能	生命の維持・恒常のしくみ、人間のからだのしくみ、ボディメカニクスの課長について学ぶ。	5.0	通信 16週目	移動・移乗における観察のポイント	移動・移乗を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。	5.0	通信 16週目	食事における観察のポイント	食事を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。	5.0	通信 16週目	入浴・清潔保持における観察のポイント	入浴を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。	5.0	通信 16～17週目	排泄における観察のポイント	排泄を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。	5.0	通信 17週目	着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント	身じたくを阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。	6.0	通信 17～18週目	休息・睡眠における観察のポイント	睡眠を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイントについて学ぶ。	5.0	通信 18週目	人生の最終段階のケアにおける観察のポイント	終末期、こころのしくみ、終末期から危篤状態の変化の特徴、死後の対応、医療職との連携のポイント、家族へのケアについて学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																																										
10.0	通信 15週目	人間の心理	人間の欲求の基本的理解、こころのしくみの基礎について学ぶ。																																										
14.0	通信 15～16週目	人体の構造と機能	生命の維持・恒常のしくみ、人間のからだのしくみ、ボディメカニクスの課長について学ぶ。																																										
5.0	通信 16週目	移動・移乗における観察のポイント	移動・移乗を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。																																										
5.0	通信 16週目	食事における観察のポイント	食事を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。																																										
5.0	通信 16週目	入浴・清潔保持における観察のポイント	入浴を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。																																										
5.0	通信 16～17週目	排泄における観察のポイント	排泄を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。																																										
5.0	通信 17週目	着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント	身じたくを阻害する要因、変化に気づくための観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。																																										
6.0	通信 17～18週目	休息・睡眠における観察のポイント	睡眠を阻害する要因、変化に気づくための観察のポイントについて学ぶ。																																										
5.0	通信 18週目	人生の最終段階のケアにおける観察のポイント	終末期、こころのしくみ、終末期から危篤状態の変化の特徴、死後の対応、医療職との連携のポイント、家族へのケアについて学ぶ。																																										
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。																																										

## 授業概要

科目名	医療的ケア	授業の種類	通学・通信	必修・選択	必修																								
授業担当者	下川 智恵子	時間数 (単位数)	50時間	配当時期	1～6月目																								
授業の目的 ・狙い	法制度や倫理等をふまえた医療的ケアの基礎的知識について把握したうえで、急変時や事故発生時の対応などもふまえた喀痰吸引と経管栄養の実施手順について理解する。																												
授業の内容	<p>【医療的ケア実施の基礎】・・・以下に掲げる医療的ケア実施にあたっての基礎的知識を理解する。</p> <p>① 医療的ケア ② 安全な療養生活 ③ 清潔保持と感染予防 ④ 健康状態の把握</p> <p>【喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)】・・・以下のほか、喀痰吸引を実施にあたって重要とされる事項を把握する。</p> <p>① 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ② 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</p> <p>【経管栄養(基礎的知識・実施手順)】・・・以下のほか、経管栄養を実施にあたって重要とされる事項を把握する。</p> <p>① 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ② 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説</p>																												
到達目標	<p>【医療的ケア実施の基礎】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。</li> <li>・医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解している。</li> <li>・感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。</li> </ul> <p>【喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸のしくみとはたらき、吸引を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基礎的知識を理解している。</li> <li>・喀痰吸引における急変・事故発生時の対応について理解している。</li> <li>・喀痰吸引の実施手順（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）を理解している。</li> </ul> <p>【経管栄養(基礎的知識・実施手順)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基礎的知識を理解している。</li> <li>・経管栄養における急変・事故発生時の対応について理解している。</li> <li>・警官英の実施手順（胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養）を理解している。</li> </ul>																												
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">コマ数</th> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 20%;">学習テーマ</th> <th style="width: 60%;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0.5 4.5</td> <td style="text-align: center;">通学 通信</td> <td style="text-align: center;">医療的ケア</td> <td>喀痰吸引等制度（社会福祉法予備介護福祉士法の改正）、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、医行為、その他の制度について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0.5 4.5</td> <td style="text-align: center;">通学 通信</td> <td style="text-align: center;">安全な療養生活</td> <td>喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0.5 3.5</td> <td style="text-align: center;">通学 通信</td> <td style="text-align: center;">清潔保持と感染予防</td> <td>感染予防、介護職の感染予防、療養環境の清潔・消毒法、消毒と滅菌について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0.5 3.5</td> <td style="text-align: center;">通学 通信</td> <td style="text-align: center;">健康状態の把握</td> <td>身体・精神の健康、健康状態を知る項目（バイタルサインなど）、急変状態について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1.0 9.0</td> <td style="text-align: center;">通学 通信</td> <td style="text-align: center;">高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論</td> <td>高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論について学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	0.5 4.5	通学 通信	医療的ケア	喀痰吸引等制度（社会福祉法予備介護福祉士法の改正）、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、医行為、その他の制度について学ぶ。	0.5 4.5	通学 通信	安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生について学ぶ。	0.5 3.5	通学 通信	清潔保持と感染予防	感染予防、介護職の感染予防、療養環境の清潔・消毒法、消毒と滅菌について学ぶ。	0.5 3.5	通学 通信	健康状態の把握	身体・精神の健康、健康状態を知る項目（バイタルサインなど）、急変状態について学ぶ。	1.0 9.0	通学 通信	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論について学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																										
0.5 4.5	通学 通信	医療的ケア	喀痰吸引等制度（社会福祉法予備介護福祉士法の改正）、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、医行為、その他の制度について学ぶ。																										
0.5 4.5	通学 通信	安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生について学ぶ。																										
0.5 3.5	通学 通信	清潔保持と感染予防	感染予防、介護職の感染予防、療養環境の清潔・消毒法、消毒と滅菌について学ぶ。																										
0.5 3.5	通学 通信	健康状態の把握	身体・精神の健康、健康状態を知る項目（バイタルサインなど）、急変状態について学ぶ。																										
1.0 9.0	通学 通信	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論について学ぶ。																										

	1.0 5.0	通学 通信	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施の手順の解説。
	1.0 9.0	通学 通信	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	高齢者および障害児・者の経管栄養概論について学ぶ。
	1.0 5.0	通学 通信	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	高齢者および障害児・者の経管栄養実施の手順の解説。
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト		評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。

## 授業概要

科目名	医療的ケア（講義・演習）	授業の種類	通学	必修・選択	必修																
授業担当者	下川 智恵子	時間数 (単位数)	15時間 (必要回数)	配当時期	1～6月目																
授業の目的 ・狙い	喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法について、演習を通じて一連の流れ（手順）を1人で実施できるよう習得する。																				
授業の内容	① 喀痰吸引のケア実施 ② 経管栄養のケア実施 ③ 救急蘇生法の実施																				
到達目標	・喀痰吸引のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ・経管栄養のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い。評価を得る。 ・救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを1回以上行う。																				
授業の日程と 各回のテーマ・ 内容・授業方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>日程</th> <th>学習テーマ</th> <th>学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.5</td> <td>通学</td> <td>喀痰吸引のケア実施</td> <td>口腔内および鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引を実際に行う。</td> </tr> <tr> <td>6.5</td> <td>通学</td> <td>経管栄養のケア実施</td> <td>胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養を実際に行う。</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>通学</td> <td>救急蘇生法の実施</td> <td>救急蘇生法、AEDの使用手順を学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	7.5	通学	喀痰吸引のケア実施	口腔内および鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引を実際に行う。	6.5	通学	経管栄養のケア実施	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養を実際に行う。	1.0	通学	救急蘇生法の実施	救急蘇生法、AEDの使用手順を学ぶ。
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法																		
7.5	通学	喀痰吸引のケア実施	口腔内および鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引を実際に行う。																		
6.5	通学	経管栄養のケア実施	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養を実際に行う。																		
1.0	通学	救急蘇生法の実施	救急蘇生法、AEDの使用手順を学ぶ。																		
使用テキスト	中央法規出版株式会社 介護福祉士実務者研修テキスト	評価基準	添削問題 70点以上で合格 70点未満の者は再度、試験・評価を行う。 実技評価 演習を実施し、一定の基準に達した者が合格。																		